



難民の友に、難民と共に

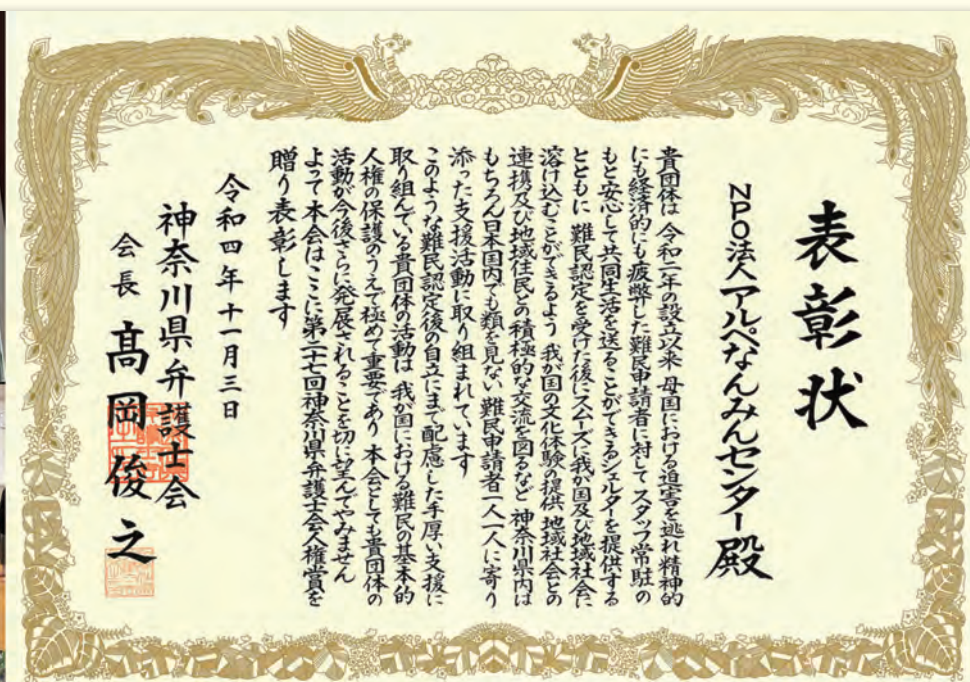
アルペ通信

2022年12月

No.5

NPO 法人 アルペなんみんセンター 〒248-0001 神奈川県鎌倉市十二所80 イエズス会 日本殉教者修道院

Tel 0467-55-5422 E-mail: info@arrupe-refugee.jp <https://arrupe-refugee.jp>



最近のアルペ

夏の終わりに、アルペの入居者ブイアンさんが脳梗塞で倒れ、緊急入院しました。仮放免という立場で在留資格を持っていないブイアンさんの医療費の負担は、十割。治療や入院、

その後のリハビリにかかる費用をアルペだけでは払えず、皆さまに助けを求めることを決めました。するとあっという間に予想を超える額のご寄付が集まりました。励ましの声もたくさんいただきました。おかげで今は病院でリハビリに励むことができ、どんどん回復してきています。

そして秋になり、アルペには子どもたちの声が響いています。いつの間にか子どもたちは5人に加え、幼稚園に負けない音量で叫んで走り回って、手に負えないほど賑やかです。そんな子どもたちのケアにも、ボランティアの方々のサポートが光っています。

寒くなりはじめた11月、神奈川県弁護士会から人権賞をいただきました。皆さまからのサポートで続けてきた活動が評価していただいた瞬間でした。アルペでくらす難民の方々も受賞をととても喜んでいました。

設立まもないアルペですが、こうしてたくさんの方に支えられていることを実感し、活動の成果が少しずつ見えてきた、そんな日々です。

日本の難民受け入れ 40 年を振り返る - インドシナ難民からウクライナ避難民まで -

鎌倉なんみん共生フォーラム 2022 を開催しました



鎌倉で活動する市民グループなどが集まり、地域で難民をどのように受け入れていくかを検討する「鎌倉なんみん共生フォーラム」が 11 月 18 日、一年ぶりに開催されました。

第 1 部の学習会では、明治学院大学国際学部のア部浩己教授をお招きし、インドシナ難民からウクライナ避難民まで、日本の難民受け入れ 40 年の歴史を振り返りました。阿部先生は「私たちはいつの間にか国という枠組みをすりこまれている」と指摘されました。だからそのなかでのルールである法律などについて疑問を持つこともないし、日本人、外国人と線を引いてしまうこともたくさんあるのです。でも大切なことは目

の前にいる人を人として受け入れ、当たり前大切に
しあうこと。どこかの国が大変な時はみんなでその負担を分け合う、そうすることで本当の国際「協力」ができると気づかせてくださいました。

第 2 部では、参加した鎌倉市議会議員、市民団体、福祉施設関係者、ボランティアなどの間で、具体的な関わりを通して地域でできること、特に仮放免の方々に向けた取り組みについて熱心な意見交換が行われました。「国内最大規模の難民シェルターに、これだけたくさんの人々が関わっていることを活かしていきたい」「鎌倉市が条例によって仮放免者に対する独自のルールを作るなど『鎌倉モデル』ができるかもしれない」という意見がだされました。

今後、様々な分野横断的な「プラットフォーム」を創設し、定期的な会合と具体的な取り組みを通して、地域における難民受け入れと支援のしくみを作っていくことに決まりました。難民条約で保障されている難民の人権を守るための取り組みが、いま鎌倉から始まっています。

地域連携コーディネーター 漆原 比呂志

全国のラーメンファンから聖地と呼ばれている神奈川県湯河原町の名店

「らぁ麺 飯田商店」 コラボのアルペ・ウクライナ交流会

日頃から支えてくださっている地元の方々に感謝をお伝えしたい、入居者やウクライナ避難民との交流を楽しんでほしい、という私たちの願い。そして困難な状況に置かれた難民・避難民の方々にラーメンで笑顔になってほしい、という飯田商店の飯田将太店主の思い。それが合わさって「アルペ・ウクライナ交流会 in かまくら」が実現しました。

突き抜けるような秋晴れの 11 月 16 日、飯田店主自ら湯河原からトラックで駆けつけ、予約も取れない大人気の鶏ラーメン約 150 食を無料で振舞ってくださいました。前半は醤油、後半は塩、またイスラム教徒の入居者のためにはハラール・ラーメンの心づくしに、麺が苦手な入居者も満面の笑みで二杯をペロリと平らげるほど。120 名を超える参加者は、バルコニーに上つらえた青空ラーメン店で、細麺にからむ澄んだスープの味わいに大満足！ おしゃべりも盛り上がりしました。

お腹を満たした後は、シェルター内の見学、庭や畑の散策など、ゆったりと過ごしていただき、ウクライナ避難民も木立にしばし立ち止まり「久しぶりに土に触れて本当に嬉しい」と楽しんでいました。心も体も喜びに満たされた秋の一日。たくさんの笑顔がアルペにあふれました。

プログラムコーディネーター 松浦 由佳子



アルペ流野菜保存法

野菜を一度にたくさん頂くことがあります。あまりに大量で調理ボランティアさんに驚かれることがあります。徐々に入居者の胃袋の中に消えてしまいます。今回は、その保存方法の一部をご紹介します。

大根は、いちょう切りや細切りにして軽くゆでた後、冷凍することがあります。ゆでる代わりに炒めることもあります。冬の寒い季節には、切り干し大根作りに励みます。3階の広い研修室の机の上に網を広げ、切った大根を干すと、ひと月ほどで仕上がります。しかし何せ素人仕事、カビの心配があるので冷凍庫へ。大根の葉も小さく切って、ゆでて冷凍しておくとう便利です。

キャベツは、ひと口大に切ってサッとゆでて冷凍保存します。ある時、どうしても手が回らず数個のキャベツを丸ごと冷凍庫にしまい込みました。野菜が不足すると1つ、また1つと取り出して使っていきます。解凍に時間がかかりますが、甘味が強くなるのが特徴で、スープや和え物に使います。これらの保存法が成立するのは、業務用冷凍庫の存在です。厨房に、それを導入した方の英断に感謝しています。

調理担当 Sr. 津田 和加子



神奈川県弁護士会 人権賞を受賞しました！



アルペなんみんセンターが、第27回神奈川県弁護士会人権賞を受賞いたしました。11月3日に神奈川県弁護士会館で受賞式がありました。設立してまだ3年目の団体である私たちが、このような栄誉ある賞をいただき、大きな喜びとともに、身が引き締まる思いです。

活動にボランティアとして参加している地域の皆さま、資金的、物質的に支えて頂いている全国の支援者の皆さまと共に、この受賞を喜びたいと思います。

事務局長 有川 憲治

地域とのつながり、ネットワークが広がっています！



小学生と難民との交流

鎌倉市内の小中学校の授業や学童保育・アフタースクールにお招きいただく機会が増えました。難民の出身国の遊びを楽しんだり、真剣に話を聞いてくれたり、良い交流の機会になっています。



医療ソーシャルワーカー(MSW)の研修会を実施しました。

10月21日 社会福祉法人恩賜財団済生会関東ブロックの医療ソーシャルワーカー研修会を行い、難民の医療について学び合いました。



かまくら国際交流フェスティバル2022に参加しました。

11月6日 鎌倉大仏(高德院)で開催された第27回鎌倉交流フェスティバルに参加しました。難民問題について、鎌倉大仏の参拝者に伝える機会を頂きました。

ブイアンさん緊急支援 ご協力のお礼



9月2日に当センター入居者のブイアンさんが脳梗塞で緊急搬送されました。医療費等の負担が高額になることが予想されたため、9月13日にメーリングリストやホームページをとおして皆さまに緊急支援のお願いをいたしました。おかげさまで10月末までに213件（個人／団体）、6,161,555

円のご寄付をいただきました。

発症時の状態から、発話や自力での移動が困難になることが

懸念されましたが、ブイアンさんは支えや見守りのもとでの歩行や短い会話ができるまでに回復してきました。

今回のような緊急支援の呼びかけはセンターとしても初めてのことでしたが、多くの方々がお心を寄せてくださったことにスタッフ一同とても励まされました。ありがとうございました。

アルペなんみんセンターは、今後も一人ひとりとの関わりを大切に活動を行ってまいります。引き続き皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

法人事務担当 山崎 恵

***緊急支援の受付は、2022年10月末で終了しました。**

アルペのストーリーが この本に！

ノンフィクション作家の佐々涼子さんが、日本の難民・移民に関する本を出版されました。アルペでも取材を重ね、難民たちの日々の暮らし、想いも紹介しています。ぜひ、お読みください！

ボーダー 移民と難民

佐々 涼子 著

2022年11月25日発売 定価：1,800円＋税
発行：集英社インターナショナル 発売：集英社

『エンド・オブ・ライフ』で
**Yahoo! ニュース 本屋大賞 2020 年
ノンフィクション本大賞 受賞後 第一作**

ウクライナ難民で始まった話ではない。ミャンマー、スリランカ、イラン、アフガニスタン、そしてアフリカの国々から……。命からがら、日本にたどり着いた人たちを、私たちは、どう受け入れてきたのか？

かつて日本語教師として在留外国人と接してきた作家が、人間の心の奥に潜むボーダー（境界）に迫る。

ウイシュマさん死亡事件で一躍注目を浴びた日本の入管・難民問題を、独自の視点で追ったノンフィクション。

難民の受け入れ、入管の改善のために四半世紀にわたり闘い続ける「難民弁護士」児玉晃一。

その奮闘の日々を、現在入管に収監されている在留外国人の取材とともに綴る。構想から10年。ノンフィクションの旗手、佐々涼子の新たなライフワーク。



こちらから
ご注文いただけます。



もっと知りたい アルペ

ホームページ

「アルペなんみん」で検索。お知らせ、活動報告等を掲載しています。



YouTube

活動紹介動画等を配信しています。



Facebook

お知らせ、活動報告等を掲載しています。



New Instagram

日本の難民問題についてわかりやすく手軽に学べるよう発信を始めました！



ご寄付のお願い

アルペなんみんセンターは、皆さまのご寄付によって支えられています。ご支援をお願いいたします。

● ホームページからご寄付 (クレジットカード、銀行振込)

アルペなんみんセンターのホームページから、クレジットカード、銀行振込でのご寄付が可能です。クレジットカードの場合、継続寄付もお選びいただけます。



● 郵便振替口座でのご寄付

【口座番号】 00250-6-107205

【加入者名】 NPO 法人アルペなんみんセンター

NPO 法人アルペなんみんセンター

〒248-0001 神奈川県鎌倉市十二所 80 Tel 0467-55-5422

E-mail: info@arrupe-refugee.jp <https://arrupe-refugee.jp>

発行日 2022年12月1日